

## 学位論文審査結果の要旨

博士課程 甲	第 号	氏 名	Elisabet Tangkonda
審 査 委 員		主 査 氏 名	岡林環彬
		副 査 氏 名	丸山浩広
		副 査 氏 名	齊藤 暁
[論文題名]			
<p>Work-related increases in titer of <i>Campylobacter jejuni</i> antibody among workers at a chicken processing plant in Miyazaki prefecture, Japan, independent of individual ingestion of edible raw chicken meat (宮崎県内の食鳥処理場従事者におけるカンピロバクター・ジェジュニに対する抗体価は鶏肉の生食とは関係なく、処理場の作業内容に関連して上昇する)</p> <p>The Journal of Veterinary Medicine Science, in press</p>			
[要 旨]			
<p>食鳥処理場作業員は、日本における細菌性食中毒の原因菌として最も発生頻度の高い <i>Campylobacter jejuni</i> に暴露される可能性が高いと考えられる。本研究では、宮崎県の食鳥処理場における女性作業員 104 人を対象とし、鶏肉の生食歴、職業上の感染リスクについてのアンケート調査を実施し、<i>C. jejuni</i> に対する抗体保有状況との関連性について検討した。宮崎県で発生頻度の高い遺伝子型を示す 4 株の <i>C. jejuni</i> から抽出した抗原を用いて、ELISA 法により IgG および IgA を測定した。抗 <i>C. jejuni</i> に対する IgG および IgA の保有状況は鶏肉の生食歴とは相関性がなかった。年齢は抗体保有状況と相関性があったが、雇用期間との相関性は見られなかった。内臓摘出に関わる作業員における IgG および IgA レベルは、他の部署担当作業員よりも有意に高い結果となった。作業員が保有する抗体の細菌抗原を同定するためにウエスタンブロッティング法および LC/MS 解析を実施したところ、鞭毛抗原を認識する抗体であることがわかった。本研究では、日本で問題となっている <i>C. jejuni</i> に対する感染リスクとして、鶏肉の生食よりも、職業的背景が関連するという新たな公衆衛生学的に重要な知見を報告しており、学位論文に十分に値すると判断した。</p>			